

学制百五十年に培われた日本の底力

京都産業大学名誉教授 所 功

日本は物的な資源の弱小国だが、人的な底力の強大国といえるかもしれない。その理由は教育制度が広く一般に行きわたっていることに起因する。日本では江戸時代から一般庶民への「読み書き算盤」の教育が広まっており、明治に入ると日本の教育力はさらに高まりを見せていった。

明治五年（一八七二）の八月二日（新暦九月四日）に太政官より「学制」が発令された。それに先立つ「学事獎勵に關する仰せ出され書」の要点は、左の通りである。

「人々自ら……其の身を脩め知を開き才藝を長ずるは、学にあらずれば能はず。是れ学校の設けあるゆゑにして、日常生活の言語・書算を初め、士官・農商・百工・技藝・及び法律・政治・天文・医療などに至るまで……人よく其の才のあるところに応じ勉勵して之に従事……して後、初めて生を治め進を興し業を昌んにするを得べし。されば學問は身を立つるの財本ともいふべきものにして、人たる者誰か学ばずして可ならんや……自今以後、一

昭和天皇の不例中の「おことば」

京都産業大学名誉教授 所 功

八年前の九月に完成された、宮内庁編「昭和天皇実録（東京書籍刊十八冊。以下『実録』）は、明治三十四年（一九〇一）四月からの御生涯を、平明な網文により綴っている（より詳しくは各条末尾注の典拠資料で調べられる）。ただ『実録』にも多数の研究・評伝などにも、きちんと収録されていない内輪の情報が少なくない。そのうち私が知りえたメモの一端を、ここに抄出しておこう。

天皇は、昭和六十一年（一九八七）の九月二十二日、宮内庁病院で癌の手術をうけられた。幸い順調に快癒されたかにみえたが、一年後の九月十九日夜、大量に吐血され、（ご闘病（不例））一一日の末、翌六十四年一月七日早朝、満八十七歳八ヶ月余の生涯を閉じられた。

その一、昭和六十三年（一九八八）九月二十七日正午前「吐血後初めて宮内庁長官藤森昭一の拝謁をお受けになり、一般のお見舞記帳の状況等についてお聞きになる。その後、皆が心配してくれてありがとう」と仰せられたことは実

昭和天皇の不例中の「おことば」

京都産業大学名誉教授 所 功

その三、十月六日午前「参殿の皇太子・同妃……崇仁親王と御対面（『実録』）にられた。その三笠宮崇仁親王は、二十四日から大阪の国立民族学博物館で開かれた国際シンポジウム「人類文明史におけるシルクロードの意義」で来賓代表の挨拶をされた際、先日お見舞いした兄君（天皇）が、「シルクロードによりローマと日本が繋がっているんだね」と仰せられた、と述べられたことを、当時、ユネスコ事務

局にいた日氏から承った。

昭和天皇は、中高一貫の東宮御学問所で白鳥庫博士から「歴史」（国史・東洋史・西洋史）を学び、歴史を愛好された。それは最晩年まで続いていたことになろう。

巻頭随想 いま、伝えたいこと

歴史研究 第703号 2022年8・9月号

く家に不学の人なからしめ人事を期す。人の父兄たるもの、宜しく此の意を体認し其の愛育の情を厚くし、其の子弟をして必ず学に従事せしめざるべからざるものなり。」

「学制」で全国に設けられることになった小学校は、当初六歳から九歳までの「下等小学」において、習字・読本・修身・体操などを学ぶこと（正学大意などは十歳から十三歳までの「上等小学」にて）とされた。当初は家の事情や親の考え方で学校に行けない子供が少なからずいたが、十数年後に前者が「義務教育」とされるに至っている。

学制発布の直後から全国各地には小学校が建て始められた。私の郷里（岐阜県）では、江戸時代から多様な寺子屋や私塾があった。母校の揖斐川町立小島小学校も明治六年（一八七三）に二宮神社の私塾「秉彝舎」（彝は規範、秉は守る意）を基に創立され、まもなく村民の寄付金で立派な木造校舎が新築されている（同十一年の写真現存）。

開校当初の小学校は高い授業料を要したが、貧しくても子女を通学させる親は徐々に増えていく。さらに、明治三十三年（一九〇〇）に無償化されると、就学率が一拳に九〇%を越えている。これは修身教育などの向上も伴って、日本の底力を大いに高めた要因といえよう。

ているが、船の方はどうか」と尋ねられたと報じている。その二、天皇は堀こ手術直前の九月十八日午後二十一日の光孝天皇二千百周年祭に先立ち……御事績についての進講をお聴き（『実録』）になった。それから一年後の吐血（病臥中も御歴代に思いを馳せておられたのか、平安京を築かれた桓武天皇（光孝天皇の曾祖父）について知りた）と仰せられ、吉川弘文館の人物叢書「桓武天皇」（村尾次郎氏監）を取り寄せられた、という話を、宮内記者だった日氏から聞いたことがある。

その三、十月六日午前「参殿の皇太子・同妃……崇仁親王と御対面（『実録』）にられた。その三笠宮崇仁親王は、二十四日から大阪の国立民族学博物館で開かれた国際シンポジウム「人類文明史におけるシルクロードの意義」で来賓代表の挨拶をされた際、先日お見舞いした兄君（天皇）が、「シルクロードによりローマと日本が繋がっているんだね」と仰せられた、と述べられたことを、当時、ユネスコ事務